

音

（おと）
最優秀賞

関西創価小学校 四年 武田 佳代子

「あれ、おかしい。やっぱり音がでない。」これはクラリネット練習初日の私の心の声。

私は、四年生でブラスバンド部に入ってクラリネットを始めた。私のお姉ちゃんは、中学校ですいそう楽部に入っている。小学校から続けているサククスをコンクールでえんそうするすがたは、本当にかっこいい。そのすがたにあこがれて私も楽器を始めた。

入部三日目、いよいよクラリネットを手にした。宝石箱を開けるような気持ちで楽器ケースを開くとそこには、「はじめまして」とあいさつするようにクラリネットがこっちを向いて入っていた。先ばいにアドバイスをうけながら、いよいよ音出した。大きく息をすって「さあ吹くぞー！」と心で言って息をふくと「スーッ……。」と間のぬけた空気の音がした。「あれっ。」と思わず声が出た。教わった通りにやったのにぜんぜん音が出ない。「どうしてかなあ？」とあせりながらやっとな音は「キーツ」っと、耳がいた

くなるようなひどい音だった。かんたんそうに見えてぜんぜんうまくいかない。本当に音が出るようになるのか、不安になった。落ちこみながら、家に帰ってお姉ちゃんに相談した。

「毎日とにかく、いっしょに練習しよう！」と言ってお姉ちゃんは練習につき合ってくれた。お姉ちゃんの口ぐせは「こうなりたいというイメージを持って練習して！」だ。

ある日おふろで教えてくれた。お姉ちゃんも初めはぜんぜん音が出なかったこと。音が出た時は、苦労した分、すごくうれしかったこと。それを聞いて、あきらめそうになっていた心に火がついた。それから毎日毎日練習した。するとある日「ポー」と良い音が出た。たった一音だけれど、あこがれていたきれいな音だ。「良い音がでたね！」とお姉ちゃんがほめてくれてうれしかった。

言葉も音楽も「音」だ。音は心を動かす。心にとどいて元気とえ顔を生み出す「音」。そんな音を目ざして練習をがんばりたい！

努力(とりよく)

優秀賞

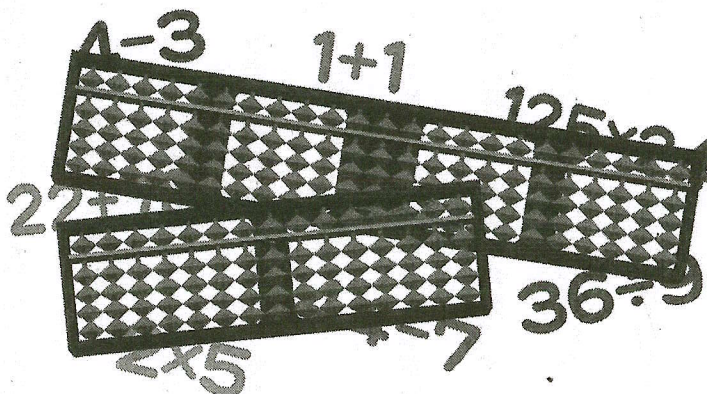
枚方市立枚方小学校 三年 金澤 昊知

ぼくが「努力」のじゅく語をえらんだ理由は、「努力すればむくわれる？ そうじゃないだろ。むくわれるまで努力するんだ。」というメツシの言葉がきっかけでした。

ぼくはそろばんを習ってからそろそろ三年になります。そろばんが好きで、教室でも家でもよく練習していました。努力のおかげで、けんていしけんじゅん一級まですらすら合格してきました。でも一級のしけん初めてさせつをけいけんしました。やる気を失った時もありましたが、やればできると思っ練習に励みました。しかし、しけん三回挑戦しても、三回とも不合格の結果でした。努力は必ずむくわれると信じていたのに、ショックでした。くじけそうであきらめようかと思っ時、メツシの言葉に出合いました。それを聞いて、努力は必ずむくわれるじゃなくて、むくわれるまで努力するのだと、とても勇気をもらいました。

これからも、もっともっ練習をがんばって一級を合格するまで

努力を続けてくじけずあきらめないことを、決意しました。



褒める^(ほ)

優秀賞

関西創価小学校 三年 内田 羽美

「すごいね。がんばったね。」

と、言われると、心がとても温かくつつまれます。わたしは、褒められるとうれしいので、むずかしい漢字だけど「褒める」という漢字をえらびました。

だれでも、とくいな事があれば、にが手な事もあります。一生けんめいがんばって、いいけっかが出た時は、自分もうれしいし、たくさんの人が褒めてくれます。一生けんめいがんばったけれど、いいけっかが出なかった時は、くやしいので、「次に向けてもつとがんばろう」と思うけれど、褒めてくれる人は、少なくなります。だけど、そんな時こそ一生けんめいがんばった事を褒めてもらえるのと、心が前向きになって、がんばる力がばいぞうするので、褒めてもらえるとうれしいです。だから、わたしは、どんな時もみんなを褒めてあげて、ゆうきづけてあげられる人になりたいです。

「褒める」という漢字は「ころも」という字を上下に分け、その

間に「たもつ」という字を書きます。「たもつ」という字の、人べんは大人で、「口」の下に「木」と書く部分は、赤ちゃんがおむつをしている様子を表しているので、「たもつ」という字は、大人が子どもをおんぶする、または、だいているすがたを意味します。それを「ころも」という字ではさみこんだ「褒める」という字は、むねに子どもをだいて、ふくらむ様子を表していて、「ひろい、ゆるやか」という意味をもつようになりました。そんざいを、全てみとめて、広く、ゆったりとした心で子どもをだきしめている様子だと知りました。

そのなり立ちを知って、わたしはビックリしました。なぜなら、わたしが褒められた時に感じていたとおり、温かくつつまれる漢字だったからです。褒め言葉はたくさんあります。みんなが褒め合っていて、世界中を温かくつつみこんでいけたら、ステキだなと思います。

声(こゑ)

最優秀賞

関西創価小学校 五年 井阪 杏紗

声と言つてもいろんな声があるけれど、私が今一番大切にしている「声」それは、人を笑顔にする声だ。

私は、学校で合唱クラブに入り、歌を歌っている。私は歌うことが大好き。みんな笑顔になあれと思いつながら、たくさんの方の笑顔を思い浮かべ、歌っていた。すると、ふと疑問に思った。「なぜ

「声」は人を笑顔にできるのだろう」と。

ある夏季練習の日。先生が言った。

「みんなの声は楽器なんだよ。声は一人一人違う。だから、その一人一人の声で、歌は美しいハーモニーになるんだよ。そのハーモニーに想いをのせて歌うからこそ、人を笑顔にできるんだよ。」

その言葉に、やっと謎が解けたような気がして、先生を見た。そして、私はこう思った。「私達の声は、楽器なんだ。きれいなハーモニーを奏でられる素敵な楽器なんだ。」

実は「声」という漢字の成り立ちも、先生が言ったことが書いて

あった。声という漢字の旧字は「聲」という字で、石の楽器を叩いた音が、耳に届くという意味で出来ていた。「声」は楽器からできた漢字だったのだ。私はそれを知って、先生がいったことの意味をさらに感じた。

でも、人には悪い「声」もある。人を傷つける声だ。私も経験がある。友達は何気なく言った言葉が、すごく嫌な気持ちになった。

その時、すごく苦しくて、泣きそうになった。たったひと言の「声」だけど、絶対に悪い声は出したくないと思った。私が感じた苦しい思いは、友達にはさせたくない。「声」のかけ方も気付くことができた。

「声」には色々な声がある。詩人の谷川俊太郎さんは「声」をこう語っている。「いつまでも消えることのない、ずっと持ち歩くことのできる宝物」と。私も人を笑顔にする声で、私の家族、友達はもちろん、たくさんの方を幸せにしていきたい。

歌(うた)

優秀賞

関西創価小学校 六年 福田 正雄

「たくさんの人に勇気と希望を届けたい！」これは、ぼくが合唱部に入ってから、いつも心に置いてのことだ。そのために、仲間と心を合わせる朝練習や放課後練習、自宅へ帰ってから自主練習に、毎日真剣に取り組んでいる。

歌はすごい。たくさん言葉が集まった詩を音にのせて、歌い手の心をまっすぐに届けることができる。

「歌」という漢字は、二つの「口」と、人が口を開けている様子を表す「欠」から出来ている。歌は、人の存在がないと成り立たないので、歌う人の心が一番大切なのだと思う。

僕たちは、

「この歌の主人公はどんな人だろう？」

「この歌詞にこめられた思いは？」

など、みんなの意見を出し合って、一つの歌をより分かつとす。僕は、この取り組みが好きだ。同じ歌でも、歌う人の気持ち

変わると、全然違うものになるからだ。

四年生の三学期、当たり前前の日常が一気に変わった。コロナ禍で学校にすらいけない。みんなが歌うことも出来なくなった。それでも自主練習は欠かさず、出来ることを探して頑張ってきた。でも不安や寂しさで、僕の心はワクワクしていなかった。

改めてそのことに気づいたのは、今年の夏休み。ミニコンサートで舞台に立った時だ。家族のためだけに心を込めて歌った。様々な制限がある中だけれど、支えてくれる人がいるおかげで、新しい形でみんなと一緒に歌うことができる。みんなが歌えることの喜び、きいてくれる人がいる嬉しさは、自然と僕の心を躍動させ、感謝の気持ちがあふれてきた。その瞬間、「歌うことで勇気と希望をもらっているのは僕自身だ」と気づかせてもらった。

僕は、これからも「歌が大好き」という気持ちと、支えてくれる全ての人への「感謝の心」を歌にのせ、さらに成長していきたい。

後悔(こうかい)

優秀賞

枚方市立樟葉北小学校 六年 金 慧

ピアノの発表会で失敗した。

大好きな曲だったから、ショックが大きかった。家に帰って冷静になつたら、余計に悔しくなつて涙が込み上げてきた。その時、今までにないだろうというくらい後悔した。その時から、ピアノのレッスンに行くのが憂鬱になった。発表会明けの初めてのレッスンの時、先生がこう言った。

「後悔は大事だよ。」

最初、私はその言葉には大きな意味はこもっていないだろうと思つた。「後悔」なんてよく分からない言葉は必要ないだろうとも思つた。でも、その言葉について一度よく考えてみることにした。

私は、いろんな失敗をしている。そして、必ずといつても良いほど後悔している。しかし、どれだけ後悔しても過去の失敗が成功に変わることはない。

でも、先生の言葉を受け止めた私はこう考えた。ピアノの発表会

で失敗しても、やり直すことはできない。でも、次は失敗しないようにたくさん練習することはできる。運動会のダンスで振り付けを間違えても、来年は間違えないように練習方法をよく考え、次につなげることはできる。合唱会で緊張して、途中から歌詞を忘れてしまつても、次は忘れないように歌詞の意味をよく考えたりして覚え方を変えることができる。

はつとした。後悔は全ての母なのだ気付いた瞬間だった。「失敗は成功のもと」ということわざがある。あれについてよく考えたことがなかったが、あのことわざも後悔という感情があつて初めて成り立つのだと気づいた。

ああ、あの言葉の意味がやっと分かった。

「後悔」という感情。それは、全てを突き動かす原動力だ。